

「春季・秋季大会講演会のあり方」に関する意見の募集について

最近、この問題について理事会等で議論が行われていることは本誌に掲載される議事録などを通じてご存じの方も多いかと思えます。講演企画委員会ではこれから改革案を煮つめてそれを実行に移していくのに先だって、ここで、これまでの経過を整理して会員各位にお伝えし、今後の議論の参考とするため皆様からの意見を広く募集します。

これまでの経過

春季・秋季講演会のあり方について、これまでも講演企画委員会では議論を重ねながらポスターセッションや第1種・第2種の講演種別の導入など改善を図ってきました。しかし、講演会は、研究者がその成果の発表を行うための、いわば、「土俵」であるため、大幅な変革は賛否が相半ばし実行が困難と考えられて見送られてきました。このような中で、昨年6月の第9回常任理事会では、関東支部設立を検討する連絡会による大会運営方法などの議論と並行して、大会講演会のあり方についても議論が行われました。そこでは大会講演会の役割や春季と秋季大会の性格分け、口頭とポスター発表のあり方などが話題となり、現状は、討論時間が不足していることなど、必ずしもベストとは言えない状況であるとの認識で一致しました。そして、具体的な提案に基づいて意見を集約しながら、改革を試行すべきであるとの結論が示されました。これを受けて、昨年8月の講演企画委員会ではこれまでの委員会内での様々な検討結果を再点検しましたが、検討時間が十分に取れなかったこともあり、現在の枠組の中では具体的な改革の方向を打ち出すまでには至りませんでした。

そこで、第11回常任理事会（昨年9月）で再度議論した結果、講演企画委員会担当理事と庶務担当理事で大会改革案のたたき台を作り、第4回全国理事会（昨年10月大阪）に提案することになり、永田（講演企画委員会担当）が主になって下記の内容を骨子とする（講演企画委員会の議決を経ていないという意味の）私案を作り、同全国理事会に討論用資料として提案しました。この案の趣旨は、まとまった内容の研究成果を現在よりも詳しく発表させ、それに対する実質的な議論や総合的な討論をもっと深める機会を確保するように大会講演会を変えていこうというものです。

改革私案の骨子

・年2回の大会（春・秋）のどちらか1回の運営方式

を変更し、発表と討論の十分な時間を取ってまとまった内容の研究成果を発表する（聞く）機会を確保する。例えば、春季大会は従来通りの形式で行い、一方、秋季大会はこれまでと違って専門「分科会」の集合の性格を持たせる。

・このため、専門「分科会」方式を取り入れる大会では、それぞれの分科会のテーマごとに指名された各分野を代表するコンピーナーが、講演企画委員会に代わって、その分科会に申し込まれた発表を選別してプログラムを作成する役割を担う。現在の第1種講演相当の発表はポスターで行い、第2種講演相当の発表は討論に十分な時間を割り当てる。

・ポスター発表の環境を改善するため、これまでのような通路やロビーではなく、専用の会場を確保する。

この改革案が実行された場合の発表者への主な影響としては、次のようなことが考えられます。

発表者への影響

・専門「分科会」方式を取り入れる大会では、口頭発表として申し込んでもコンピーナーの判断でポスター発表に振り変えられる場合が生じる。

・「分科会」が成立しない分野の多様な口頭発表が「その他」としてひとまとめにされる可能性がある。

この案に対し、多くの意見が出されましたが、大筋で改革の方向性は了承され、常任理事会・講演企画委員会では細部の問題点や具体化の方策を検討することになりました。なお、その後も含めて改革案に対して出された意見の主なものは以下の通りです。

これまでに出された主な意見

・これまでの改善策も、各分野の研究連絡会の場で実質的な議論を深める方向で進められてきており、最近の連絡会の活動状況を見ると分野によっては研究連絡会の設置は成功しつつあり、連絡会が専門「分科会」の母体となりうる。

・しかし、まだ研究連絡会が設置されていない分野があり、そのような分野は「分科会」方式の研究発表をどのように行うか、コンピーナーをどうやって見つけるか、よく検討する必要がある。

・秋季大会講演会と合同で行われている気象庁の各地区研究会は、現在の発表形態の方がむしろ適合していること、また、新方式の実行は、どちらかといえば大会運営に慣れた人の多い関東地区で始める方が、よりスムーズにいくと考えられることなどから、提案とは

逆に、春季に専門分科会方式をもってくる方がよい。
(注：この点について、他に特に理由がなければ、改革案提案者も賛成です)

・ポスター発表は、発表数をこなす観点からは必ずしも口頭発表より効率的とは言えないので、よくシミュレーションを行って確かめる必要がある。

第12回の常任理事会（昨年11月）では全国理事会の議論が再確認され、次回の講演企画委員会で、改革案に沿う方向で大会運営を実行する場合の問題点等について検討し、その結果を常任理事会に報告するよう求められました。

意見の募集と今後の予定

具体的な改革案の細目が示されていないため、意見を出しにくい面があるかもしれませんが、今後の議論の参考のため、皆様からの意見を広く募集します。ご

意見・ご要望を講演企画委員会事務局（連絡先下記）までお寄せ下さい。また、本誌「会員の広場」へこの問題についての投稿も歓迎いたします。

委員会では、頂いた意見を参考に次回の会合（3月初旬）から本格的な議論を行い、大会講演会改革の具体案を作る予定です。そして、適当な機会（早ければ1997年春季大会）に試行し、それに対する会員の皆様の反応（ご意見）を集約し、さらに改善を図っていきたいと考えております。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

連絡先：〒305 つくば市長峰1-1

気象研究所 予報研究部 講演企画委員会
事務局 藤部文昭

FAX：0298-53-8649

(講演企画委員会 担当理事 白木正規・永田 雅)



海洋理工学会平成8年度春季大会のお知らせ

目的：海洋の理学と工学の複合領域に関するシンポジウムを開催し、新技術開発・研究を促進させ、他分野の研究者、技術者との交流の機会を提供することを目的とする。

期日：1996年4月5日(金)～6日(土)

場所：東京水産大学（東京都港区港南4-5-7）

代表者：杉森康宏（東海大学海洋学部）

内容：海洋理工学会に関する研究発表並びに講演会プログラムは3月中旬に配布致します。

参加費：日本気象学会会員：3,000円
(一般：3,500円)

事務局（連絡先）

〒424 静岡県清水市折戸3-20-1

東海大学海洋学部海洋工学科内

海洋理工学会事務局 千賀康弘

TEL 0543-34-0411 EXT 3424